

第21回 いわき都市圏総合都市交通推進協議会



[協議事項]

- (1) 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金に係る令和7事業年度の事業評価について

[報告事項]

- (1) 第二回バス無料デーの実施について



令和8年1月22日（木） 10：30～



[協議事項]

議案第1号

地域内フィーダー系統確保維持費
国庫補助金の事業評価について



地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金の事業評価について

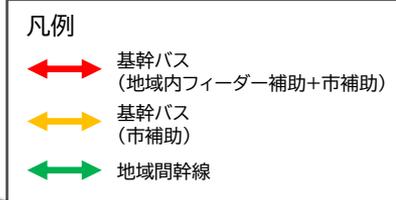
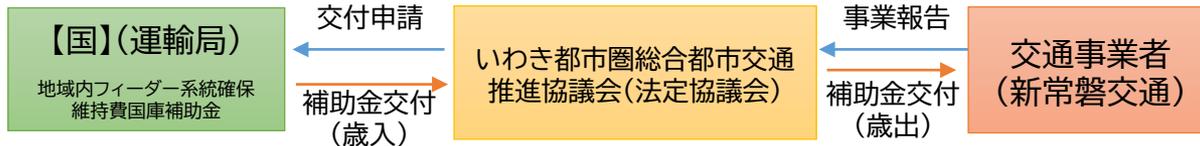


1 いわき市地域公共交通計画に基づく基幹バス路線の維持・発展

- 地域公共交通計画では、主要な都市拠点間を結ぶ、バス路線を『**基幹バス路線**』と位置付け、将来にわたり維持する本市の骨格をなす重要な路線としている。
- このことから、国の補助メニュー(地域内フィーダー)を活用しつつ、本市においても運行支援を行うことで、維持・発展を図るものとする。

【協議会における役割】

※令和7年度より国補助の補助対象事業者が活性化法定協議会のみ



2 これまでの経過について

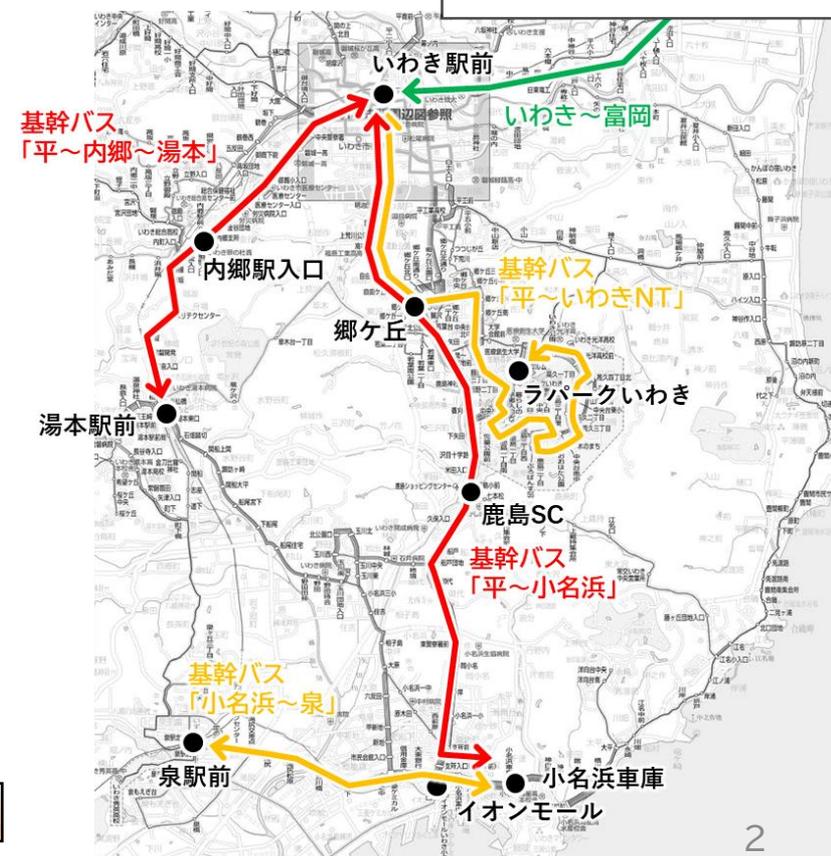
日付	内容
1/20	第15回協議会にて「いわき市地域公共交通利便増進実施計画(案)」について了承を得た
2/28	『いわき市地域公共交通利便増進実施計画』の国土交通大臣の認定を受けた
R7 2/18~28	第16回協議会(書面開催)にて、「令和7事業年度 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金計画認定申請」の内容について了承を得た
3/26	「令和7事業年度 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金計画認定申請」について国土交通大臣の認定を受けた
4/1~	『いわき市地域公共交通利便増進実施計画』に基づく本格運行を開始(補助対象路線の運行開始)

3 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

【対象路線】右図参照 基幹バス路線「平～小名浜」、「平～内郷～湯本」

【対象期間】R7バス補助年度(R6.10.1~R7.9.30)のうち、本格運行後のR7.4.1~R7.9.30

計画認定を受けた協議会は、期間終了後**事業評価**を行い、国に提出



4 事業評価について

●事業評価に当たり、いわき市地域公共交通利便増進実施計画で掲げる目標値を基に評価
 ※利便増進計画に基づいて実施される事業については、地域公共交通計画及び利便増進計画に係る評価で代わりとすることが可能。

定量的な目標・効果

令和7事業年度 地域公共交通確保維持事業に基づく目標値
 (当該認定申請時に新たに位置づけ)

■各基幹バス路線における利用者数の目標値 (令和7事業年度を含めた各事業年度の目標値)

実績値(R2)	利用者	目標値(R7)	利用者
①平-いわきNT	30万人	①平-いわきNT	33万人
②平-小名浜	25万人	②平-小名浜	26万人
③平-内郷-湯本	42万人	③平-内郷-湯本	48万人
④小名浜-泉	19万人	④小名浜-泉	22万人
合計	116万人	合計	129万人

■各基幹バス路線における収支率の目標値 (令和7事業年度を含めた各事業年度の目標値)

実績値(R2)	収支率	目標値(R7)	収支率
①平-いわきNT	61%	①平-いわきNT	67%
②平-小名浜	67%	②平-小名浜	71%
③平-内郷-湯本	56%	③平-内郷-湯本	63%
④小名浜-泉	48%	④小名浜-泉	53%
合計	58%	合計	64%

※②平-小名浜、③平-内郷-湯本については、地域公共交通確保維持事業の対象系統である(1)いわき駅-鹿島SC-イオンモール-小名浜、(2)いわき駅-鹿島SC-イオンモール-館の腰、(3)いわき駅-常磐病院-湯本駅を含む

目標を達成するために行う事業

- 路線バスの最適化(いわき市、事業者)
 - ・運行ルートの統一化
 - ・各路線のダイヤを等間隔に変更(30分、60分)
 - ・大型商業施設や総合病院に経由する系統に統一
 - ・既存路線を幹線系統と支線系統に分離
- 路線バス乗り方教室等の公共交通の利用促進に向けた取組みの実施(いわき市、事業者)

評価項目

実施状況、目標・効果の達成状況

【実施状況等】

令和7年4月1日に運賃を値上げしており、また①平-いわきNT及び②平-小名浜については、もともとの需要があることや、等間隔ダイヤにより利用者が増え、目標としていた利用者及び収支率を達成することが出来た。
 ただ③平-内郷-湯本及び④小名浜-泉については想定よりも利用者が増えず、利用者数の目標を達成することが出来なかった

【実績】

達成状況	利用者			収支率			判定
	実績	目標	達成率	実績	目標	達成率	
①平-いわきNT	359,304	330,000	108.9%	87.5%	67%	130.6%	A
②平-小名浜	352,207	260,000	135.5%	81.9%	71%	115.4%	A
③平-内郷-湯本	422,069	480,000	87.9%	70.9%	63%	112.5%	B
④小名浜-泉	204,322	220,000	92.9%	53.1%	53%	100.2%	B
合計	1,337,902	1,290,000	103.7%	73.3%	64%	114.6%	

【内訳】 A : 2件、B : 2件、C : 0件

※評価の判定基準

- ・A ⇒ 目標達成100%以上
- ・B ⇒ 目標達成80%以上100%未満
- ・C ⇒ 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)

事業の今後の改善点

目標が達成できなかった③平-内郷-湯本及び④小名浜-泉については、さらなる利用者数の増加を図るため、周囲の路線も含めた全体的な導線を構築していくことが必要となる。
 今後は当該路線の需要を改めて確認し、その需要にあった移動手段としての利便性を向上させることで利用頻度の向上及び新規の利用者の増加を目指す。



[報告事項]

(1) 第二回バス無料デーの実施について





(1) 第二回バス無料デーの実施について



1 バス無料デーの概要

利用者の減少が続いている公共交通の利用を促進するとともに、買い物等の外出機会の創出による地域経済の活性化や交通渋滞の緩和、環境負荷の軽減などを目的に実施

2 第一回バス無料デーの開催状況について

- ・実施日 令和7年10月19日(日曜日)
- ・対象路線 新常磐交通が運行する、いわき市内発着の路線バス全線(高速バス、観光バス等は除く)

・バス無料デーと前後の週の比較

	前週	無料デー当日	翌週
日付	10月12日(日)	10月19日(日)	10月26日(日)
利用者数	2,713人	4,227人	2,240人
増加率	155.8%		188.7%



普段に比べ1.5倍～1.8倍の利用者
⇒潜在的なバス利用者があることを確認

3 実施後のアンケートについて

- ・利用者より定期的・平日の開催について多数の要望
- ・バス無料デーにより普段バスを利用されていない方が久しぶりにバスを利用したとの声も

利用者の声(一部抜粋)

定期的実施して欲しい

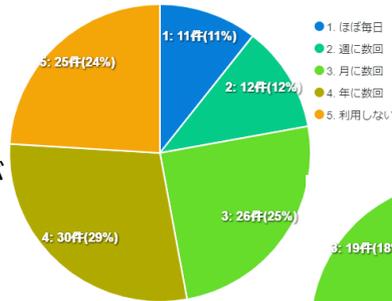
平日も実施して欲しい

今後のバス利用者も増える良い取り組みだと思った。

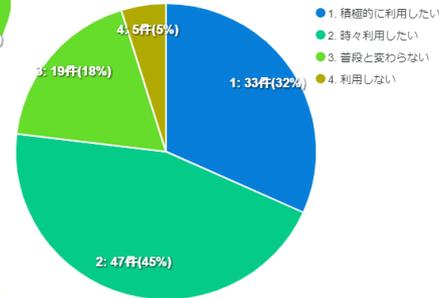
もっと大々的に宣伝して欲しい

数年ぶりのバスを乗る機会となった

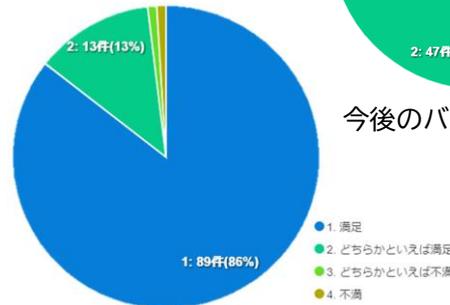
環境問題・渋滞緩和になると思う。



普段のバスの利用頻度



今後のバス利用について



バス無料デーの取組について

バス無料デーにバスを利用した人の約半数が、普段のバス利用が年に数回～全く利用しないと回答。

利用者の7割以上が今後も利用したいと回答、また9割以上は今回のバス無料デーについて満足との回答



バス無料デー実施が今後のバス利用のきっかけ作りとなったと考えられる



(1) 第二回バス無料デーの実施について



4 第二回バス無料デーの実施について

○実施予定日
令和8年3月18日(水)

※この日に設定した理由

- ・普段の利用者への影響を考慮し、**比較的学生の利用が少なくなると考えられる高校の卒業式後**とした。
- ・4月から**高校生・社会人になる方に移動手段の試し**として利用してもらうことで、今後の利用者増加につながると考えられる。
- ・市内の企業において一般的な**定時退勤日である水曜日**に設定することで、飲み会等により**お酒を飲まれた方の帰宅手段としてバスの利用**が見込まれる。

○対象路線

第一回と同様、新常磐交通が運行するいわき市内発着の路線バス全線（高速バス、観光バス等は除く）
 ⇒平日開催であることから前回開催した日曜日に比べ、**利用できる路線は拡大**
 (いわき-富岡線、川内-小野-上三坂線も対象)
 ※右図のとおり

○今後の対応

- ・本協議会終了後、書面にて運賃協議会を実施
- ・前回同様市内の商業施設、観光施設と連携した取り組み実施に向けて準備
- ・様々な媒体・方法により、実施について広報活動を行う。

